

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	872300231		
法人名	有限会社 茨城まごころ介護サービス		
事業所名	グループホーム こころ		
所在地	潮来市日の出1丁目21番地1 (電話) 0299-80-9055		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年6月24日

【情報提供票より】(平成19年11月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月30日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	10人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.25人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年11月11日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	1	要介護2	5		
要介護3	7	要介護4	4		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 81.8 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝井医院	大崎歯科医院
---------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は、「お年寄りが住み慣れた地域の中で安心して暮らす支援がしたい」との思いから事業所を立ち上げた。
看護師、栄養士、理容師、其々の資格を持つ職員がおり、日常生活支援に活かしている。
利用者は公民館で開催している「いきいき体操」に毎回参加するなど、地域との交流も積極的に行っている。
広いオープンデッキで利用者は日なたぼっこをしたり、お茶を飲んだり、布団を干したりと、穏やかで張のある日々を送っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画に家族の意見も取り入れて作成し承認を得ている。 緊急時の対応については、看護師の資格を持つ職員を採用しているが、全職員の緊急時の研修は行っていない。 地域との交流を積極的に行い、理解、協力が得られるよう努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は一部の職員と話し合い管理者がまとめている。 全職員で、全項目に取り組み、サービスの質の向上につなげることを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は1回開催しているが、参加メンバー等調整し、定期的に開催することを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置に加え、家族の面会時に意見や要望を聞き、ミーティング等で話し合い運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所の行事に地域の住民を招待したり、演芸等でボランティアの来訪、利用者が地域の公民館の行事へ参加、商店への買物や食事等を通して交流を深めている。 また近所の親子が遊びに立ち寄ったり、野菜等を届けてくれる住民の方もおり、地域の人々と交流がある。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し「人としての尊厳を保ち ゆったり 楽しく ころ豊かにその人らしく 地域と共に暮らして行きます」と、地域の一員として暮らし続けることを支える理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で理念を伝え、実践に向け確認、話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭等事業所の行事に地域の人々を招待したり、演芸等ボランティアの来訪もある。地域の食堂での外食や商店での買物、散歩がてら遊びに来たり野菜を届けてくれる住民もおり、地域の一員として交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で課題になったことについて、改善に向けて話し合い、改善できる所は改善している。 自己評価は、一部の職員と管理者が意見を出し合って作成している。	○	自己評価・外部評価の意義を理解し、全職員で全項目に取り組み、サービスの質の向上につなげることを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は1回開催し、討議内容を利用者の家族にも報告しているが、開催回数・地域代表等の参加メンバーが少なく、地域の理解や支援を得るまでには至っていない。	○	行政の職員・地域の住民・利用者・利用者の家族等の参加を得て、定期的を開催することを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と定期的に連絡を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な金銭管理の報告とともに、利用者の様子や事業所の行事予定等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するほか、家族の面会時等に意見や要望を聞き、ミーティング等で話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ケアの偏りを避けるため、半年毎に職員の異動をしているが、必要最小限に抑えている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に担当指導者を付け、2週間の研修期間を設けている。 段階に応じて年3回程の外部研修受講を実施し、研修内容をミーティング等で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、介護支援専門員の連絡会等でも同業者と交流する機会を持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人と家族にホームの見学をしてもらい、他の利用者と一緒にお茶を飲んでホームの雰囲気を知ってもらったり、自宅を訪問して話し合いをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から料理等を教えてもらうこともあり、日常的な会話の中でお互いに感謝の言葉を口にしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中や家族からの情報を基に、利用者の意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の自立支援と尊厳をもって生活できるよう、本人・家族、必要な関係者と話し合い、それらの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員や家族等必要な関係者と話し合い、期間や利用者の変化に応じた見直しをしている。	○	介護計画の遂行状況や効果などを明確にし、より良いサービスの支援を目指し、モニタリングする取り組みを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族のニーズに応じて、通院介助・入院・早期退院の支援、家族の送迎・宿泊の支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医に受診できる体制となっている。 受診や通院は基本的に家族の対応になっているが、希望に応じてホームでも対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応に向け、体制を整えている段階である。	○	本人や家族・医師等関係者で十分な話し合いをするとともに、マニュアルや確認書等作成の取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が利用者一人ひとりに対する対応が共通した内容で出来るよう努めるとともに、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。 写真等の掲示について、家族に了解を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースを大切に、希望に沿って過ごせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。 献立は利用者の好みや希望に配慮して栄養士が作成している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回は入浴支援をしているが、時間や回数は利用者の希望にそって支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かし、食事の準備や片付け・洗濯・洗濯物たたみ・居室の掃除・行事の飾りつけ等、楽しみながら張りのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の商店へ歩いての買物・月1回の外食や公民館でのいきいき体操・花見や果物狩り、散歩やドライブ等、日常的に外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより鍵をかけないケアを実践している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、防災訓練を実施している。 また、食料を備蓄している。 災害時に地域住民との協力体制づくりまでには至っていない。	○	災害時に事業所を提供することも可能であるため、地域の人々の協力が得られるよう働きかける取り組みを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量を把握しており、栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽あたりのよい居間で、ゆったりとしたソファでくつろいだり、食事の準備をしたりと、其々が思い思いに過ごし、落ち着いた居心地の良い共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して使い慣れた生活用品を持ち込んでおり、大きな収納に整頓し、清潔にしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。